

# 高校魅力化による地方創生を 推進するコンソーシアム構築

海士町魅力化コーディネーター  
奥田麻依子

# 2014年（初回の会議）にご提案した**学校の魅力化による地方創生**の流れ

## 今までの状況

（教育が地方衰退を促進）

過疎化・少子高齢化  
文化産業衰退

若者・子ども流出  
後継者不足、誇り喪失

教育格差

都会の  
担い手育成  
(地域を出る教育)

学校の**標準化**

## これからの逆流

（教育・学校からの地方創生）

産業創出・地域の魅力化  
持続可能化

若者・子ども増  
継承者・誇りの創出

Uターン

関係人口  
創出

教育の  
ブランド化

地域留学

地域の  
担い手育成

地域課題  
解決型学習

学校の**魅力化**

# 高校魅力化による地方創生① 新しいひとの流れ

## ・ 県外生徒募集を行う公立高校（地域留学）の増加

2018年9月現在 **313校**（全公立高校の8.8%）

（文部科学省「公立高等学校入学者選抜における県外からの募集実施状況」他）

## ・ 島根県公立高校の県外入学生約550人<sup>(3学年)</sup>

## ・ 教育移住や地域留學生の保護者の 地方移住やふるさと納税も。

福岡県	1校
佐賀県	0校
長崎県	31校
熊本県	3校
大分県	1校
宮崎県	1校
鹿児島県	56校
沖縄県	3校

鳥取県	8校
島根県	19校
岡山県	7校
広島県	6校
山口県	1校

徳島県	17校
香川県	0校
愛媛県	8校
高知県	8校

新潟県	9校
富山県	0校
石川県	1校
福井県	0校
山梨県	1校
長野県	2校
岐阜県	11校
静岡県	1校
愛知県	0校

三重県	18校
滋賀県	1校
京都府	0校
大阪府	0校
兵庫県	1校
奈良県	6校
和歌山県	5校

北海道	21校
青森県	0校
岩手県	3校
宮城県	0校
秋田県	47校
山形県	2校
福島県	4校

茨城県	4校
栃木県	2校
群馬県	4校
埼玉県	0校
千葉県	0校
東京都	0校
神奈川県	0校

# 高校魅力化による地方創生② 地域を担うひとづくり

## ・ 高校生の地域課題解決型学習による地方創生の担い手育成

高校生が地域産業等に関わることにより、地域の活性化や地域の大人の人材育成が進んでいる事例も増えている。こうした取り組みが長期的には地方創生の担い手育成、地域の自立的な地方創生につながっていく。

### Social Business Project

高校生が地域資源（ひと、モノ、自然、歴史、名所旧跡、産業等）と交流し、見直し、活用して“まちづくり”や“ビジネス”を提案していくことで、地域の課題を解決していこうという取り組み。

2013年4月に三重県立南伊勢高等学校南勢校舎で最初のSBPが立ち上がった。地域に根ざした取り組みが全国に広がりがつある。



(<https://mirai-otona.jp/aboutsbp/>より)

### 高校生による大人のプロジェクト伴走

島根県立隠岐島前高校（海士町）では、3年生選択科目の授業で、地元ホテルとコラボし、生徒がホテルスタッフの「マイプロジェクト」を応援するという取り組みを実施。ホテルの仕事も体験した高校生の問いから、大人が課題の本質に気付くことも。

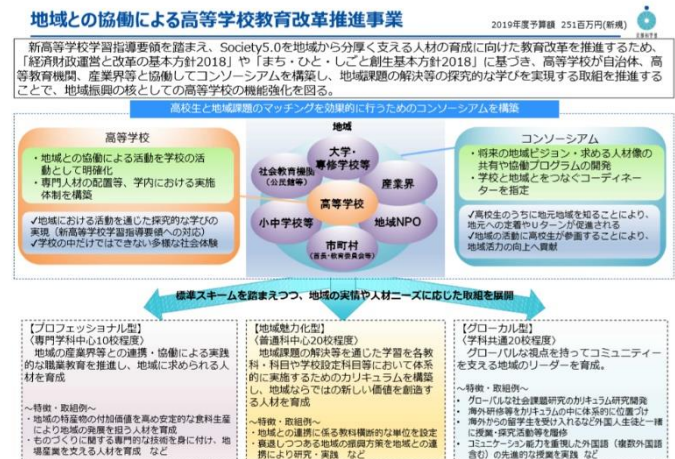


(<http://www.dozen.ed.jp/interview/895/>より)

## ・ 地域との協働による高等学校教育改革推進事業

**コンソーシアムを構築**して、高校での地域課題解決等の探究的な学びを推進することで、高等学校を核とした地方創生にも期する**モデル構築**と**横展開**にも着手。

**評価システムの導入**により、**PDCAサイクル構築**にも同時に取り組む。



# 高校魅力化による地方創生③ 関係人口・Uターン増加

## ・高校時代に加え、卒業後の地域での活動によりUターン率向上

海士町では魅力化プロジェクトに取り組む前後でのUターン率が、

**15.2%**（2004～2008年の平均） → **24.9%**（2011～2015年の平均）に増加。

（島根県中山間地域研究センターによる調査）

**卒業生が地域外に出た後もつながり続ける仕組み**をつくることが重要。

海士町出身



大学進学  
（京都）



海士町役場  
島前教育魅力化  
プロジェクト担当



知夫村出身



大学進学  
（神奈川）



知夫村で  
農協職員

（写真：<https://www.facebook.com/shimatan.dozen/>より）

西ノ島町出身 → 大学進学（東京） → 西ノ島町の社会福祉法人（継業）

島前高校**卒業生4名**が中心となり、島外から**参加者を集め「SHIMA探究」というプログラム**を実施。2015年～2017年の間に5回開催し、島の魅力を伝えると共に、島の**小中高生との交流**を行った。運営メンバーのうち3名が、**大学卒業後Uターン**している。

# 高校魅力化による地方創生④ 県単位の仕組み化・人口社会増

## 学校を核とした官民協働による地方創生プロジェクト (2017年～)

地方創生推進交付金を活用して、**島根県・県内市町村が連携**して取り組む。

離島・中山間地域の県立高校での取組や成果をベースに、「教育の魅力化」を全県、全校種に横展開。

「地域を担う人づくり」「稼ぐ力の強化」「移住・定住の推進」を進めることで、「しまねに定着、回帰・流入する人の流れづくり」を目指している。

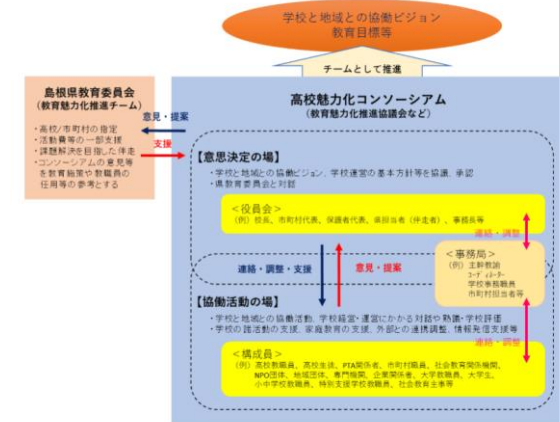
(右図：文部科学省資料より)



●地域協働スクールのイメージ図

## 全高校で「高校魅力化コンソーシアム」構築を推進

島根県では、全ての公立高校で、市町村や地元企業等の多様な主体が参画し、魅力ある高校づくりに取り組む協働体制(高校魅力化コンソーシアム)を構築し、全ての高校において、**地域課題解決型学習**を推進。



※ 上図は1高校1コンソーシアムの例であり、市郡においては複数の高校で1コンソーシアムの場合も想定される。

## 島根県の人口は2018年に社会増。中国5県で唯一。(2018年10月1日時点 総務省人口推計)

# 高校魅力化による地方創生の課題と今後の方向性

## 課題意識

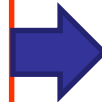
・地方創生における高等学校等の重要性がいまだに認識されていない



・意欲のある個人頼みで、取り組みを推進している状況



・学校、地域が連携して取り組みを支える基盤が不十分



## 今後の方向性

○次期総合戦略で**高校魅力化による地方創生・地方創生を推進するひとづくり**の重要性を**明確に掲げる**

○多様な主体と協働し、**地域内外の人や資源をつなぐ人材（コーディネーター）を育成**

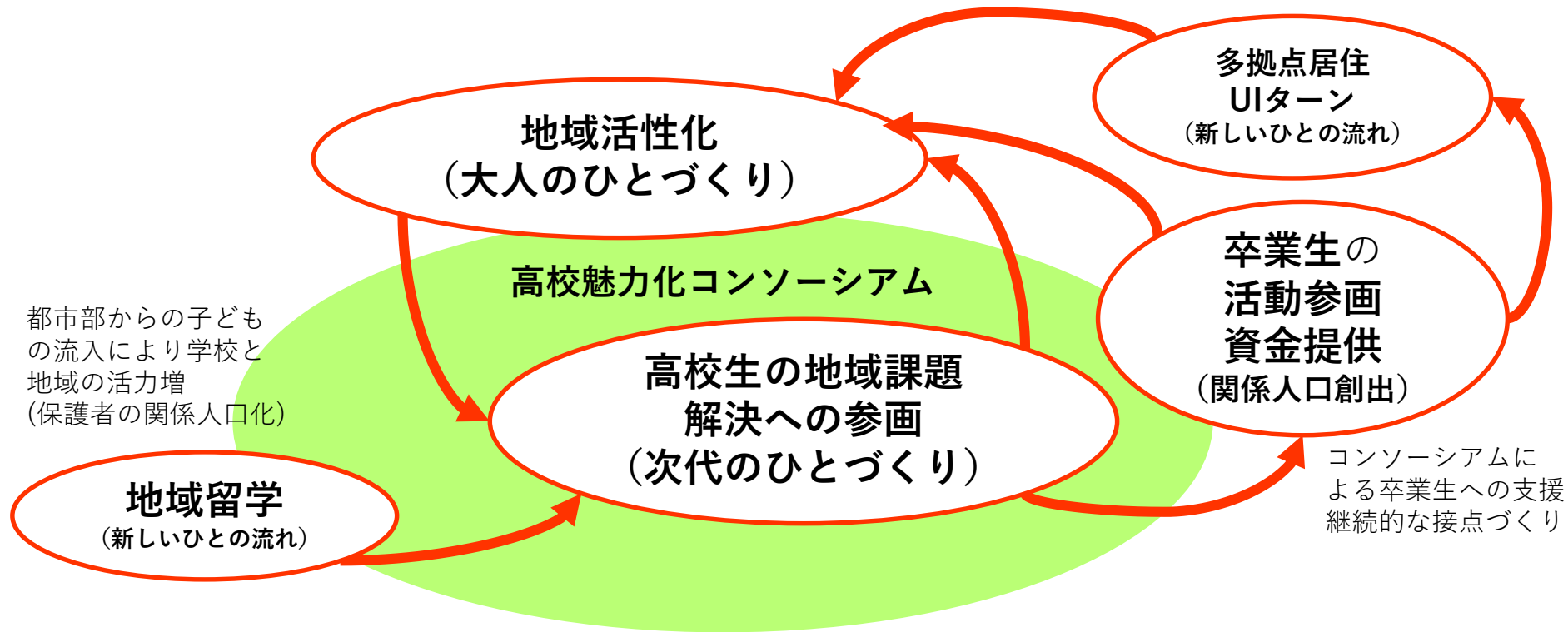
○コーディネーターの**配置・活用のための予算確保**

○**基盤となる協働組織（高校魅力化コンソーシアム）構築**

○全国のコンソーシアムをつなぐ**中間支援組織**を育成

# 高校魅力化による地方創生を推進するコンソーシアム構築

- 高校を核としたひとづくりと地域活性化、新しい人の流れの循環の基盤となる**学校と地域の協働組織（コンソーシアム）の構築・育成を推進**



- ・コミュニティ・スクール（協議機能）と地域学校協働本部（実行機能）を強化し、両機能を併せ持つような**協働組織の具体的な検討とモデル構築**

（地域運営組織、地域再生推進法人制度等の活用や寄付に係る**優遇措置**等も検討）

- ・**地方創生推進交付金やふるさと納税（企業版を含む）等の活用**
- ・当該組織への**公務員（市町村職員や都道府県職員等）の参画・出向・副業等**の促進